

# 日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会  
〒602-8048 京都市上京区下立売通  
小川東入ル  
中西印刷株式会社（日本産業衛生学会  
近畿地方会事務局支局）  
発行責任者・中西一郎（地方会長）  
<http://jsoh-kinki.jp>

## 新年のご挨拶

～地方会ニュースは年2回の発行にさせていただきます。  
またメールアドレスの登録をよろしくお願いいたします～



近畿地方会長 中西 一郎

新年あけましておめでとうございます。近畿地方会の皆様方には晴れやかなお正月をお迎えのことと存じます。年頭に当たり昨年の地方会活動を振り返り、併せて今年の予定を述べさせていただきます。

昨年11月の第59回近畿産衛学会は森口次郎会長の下、一般演題21題、参加者は300人を超え盛会裏に終了いたしました。詳細は会長報告に譲りますが、天気の良い日でアクセスのよい新しい会場、ランチョンも高名な先生のご出講と参加者にはこの上ない環境であったかと思えます。懇親会も大変充実したものでした。皆様ご参加ありがとうございました。

大学・部会・研究会の連携プロジェクトは大阪大学大学院医学研究科環境医学の祖父江教授にお世話になりました。こちらも普段より多い30名のご参加をいただき、予定時間を1時間も超過してご対応いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

ここまで昨年度の後半の行事を振り返りましたが、このニュースが出るころには初めての試みである若手学会員活性化プロジェクト「20代30代集まれ！大阪城ウォーキング&ワールドカフェ 全国初のこころみ！しらんけど」が多くの参加者を得て終了していることと想います。また誌面での報告をご覧ください。

さて、サブタイトルにもつけましたが、長らく年4回発行しておりました地方会ニュースを来年度より年2回の発行とさせていただきます。地方会の費用削減がその理由です。近畿地方会はこれまである程度の内部留保があり、単年度赤字の運営をしてまいりました。ただ大きな赤字は事業の継続性の問題がありますので、費用削減を検討し事業費の中で大きな部分であるニュースの削減に踏み切ることいたしました。自身6年間編集を担当させていただき思い入れもあったので残念です。幹事会での相談後、代議員会でも異論なく承認されましたことご報告いたします。もちろん管理費も削減し選挙のない

年は黒字を必達する所存ですので、会員各位のご理解をどうぞよろしくお願い申し上げます。各部会の情報やニュース発行の狭間になる連絡等はホームページを活用いたします。また地方会から会員の皆様へのご案内も郵便料金も上がりましたし、できるだけ電子メールでと考えておりますので、メールアドレスの登録をよろしくお願いいたします。日本産業衛生学会のホームページにアクセスしてログインの上、登録変更をしてください。

2020年は働き方改革関連法案の内、いわゆる同一労働同一賃金に関する法令が4月に施行されます。産業保健の機能強化も具体的な成果や問題が出てくるかもしれません。これに関して日本医師会は産業医の組織化を打ち出しております。また東京オリンピック後の経済の下振れリスクなど、産業保健を取り巻く状況は変化し続けそうです。会員の皆様に役立つ情報を発信しつつ、皆様とともに運営してまいりたいと存じますので、引き続き積極的なご参加をお願いいたします。最後になりましたが、本年の皆様のご健勝を祈念して新年のご挨拶といたします。



## 第59回近畿産業衛生学会開催のご報告

一般財団法人京都工場保健会

第59回近畿産業衛生学会 学会長 森口 次郎



2019年11月9日（土）に立命館大学朱雀キャンパス（ランチョンセミナーのみ京都府医師会館）で第59回近畿産業衛生学会を開催しました。参加者数315人、懇親会参加85人と盛会であり、支援いただきました近畿地方会の会員・役員、座長・演者、実行委員、参加者各位と、協賛企業・団体に心より厚くお礼申し上げます。またランチョンセミナーで立ち見が出る状況となるなど、参加された皆様にご不便をおかけしたことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

一般演題21題のうち、優秀演題賞を受賞した、大阪がん循環器病予防センターの手塚一秀先生の「職場の対人関係でのストレスと肥満との関連：仕事の量的負担での群別検討」は、仕事量負担が高い部署ほど優先して人間関係を改善することが肥満予防に効果的である可能性を示しました。若手奨励賞のうち一題は、パナソニック健康保険組合の石田あかね先生の「体重増加の抑制につながった減量奨励メールについての検討」が受賞し、減量奨励メール送信による対象者の体重増加の抑制を示唆しました。もう一題はオムロン株式会社の深井恭佑先生の「職場、産業保健スタッフ、外部専門家が一体となり進めた組織活性化とプレゼンティーズム改善の一例」が受賞し、Appreciative Inquiry（AI）を用いた組織開発活動の事例を紹介しました。受賞者の栄誉を讃えます。

教育講演では、立命館大学の種子田穰教授に「プロスポーツの社会貢献—今日の社会とスポーツ—」を講演いただきました。プロスポーツは人々にお互いの「繋がり」を実感させる重要な役割を果たす「公共財」といえること、社会に存在するすべての事業は社会貢献するからこそ、持続できることなどを述べました。

ランチョンセミナーでは、東京大学の松平浩特任教授に「プレゼンティーズム軽減に向けた個人的アプローチ—腰痛・メンタルヘルスを含む包括的対策—」を講演いただきました。以前から親交のあった松平先生が翌日に東京の学会での講演を控えながら、わざわざ京都まで足を運んでくださったことに感激しました。

基調講演は、産業医科大学の森見爾教授に「我が国の産業保健プロフェッショナルの育成システム—これまでと今後—」を講演いただきました。健康経営やISO45001との関係を示しながら産業保健の高度プロフェッショナルの必要性、プロフェッショナルの育成制度である産業衛生学会専門医制度や産業保健看護専門家

制度などを紹介し、専門家の今後のあるべき姿についての課題と展望を説明されました。

続くシンポジウム「『よりよい産業保健サービスをめざして』～専門性向上と連携強化～」では専門性の異なる4人に登壇いただきました。パナソニック健康保険組合の津田由紀先生は、「産業看護職のキャリア形成について～多職種との連携～」と題し、産業看護職の育成ローテーション、ラダーチェックシート活用、多職種連携による健康管理室新設の例などを紹介いただきました。京都文教大学の森崎美奈子先生は、「産業心理職としての過去・現在・未来～国家資格化に伴う役割・キャリア育成をめぐる～」と題し、産業保健における心理職の役割の変遷を紹介し、国家資格化を受けより資質の高い産業心理職の育成が喫緊の課題であると述べられました。京都工場保健会の佐本一先生は、「産業技術職作業環境測定士—現状の課題とこれから—」と題し、作業環境測定の歴史や日測協認定オキュペイショナルハイジニストを含む資格制度、適切な指導を通じて労働者の健康障害を防止できる専門家であるべきことなどを述べられました。私は「嘱託産業医の資質向上に向けて—京都府医師会産業医部会と社会医学系専門医制度京都プログラムの取り組み—」と題し、京都府医師会での実践的な産業医研修と、関係諸機関とともに立ち上げた「京都プログラム」の取り組みなどについて紹介しました。多職種連携に関する総合討論では、インターネットで質問するアプリケーションを使用して、多くの方の意見を取り上げる助けとしました。

懇親会は、昨年の和歌山に負けない企画をと意気込んだ事務局の準備のもとで開催されました。お寿司などのライブケータリング、有名和菓子、自閉症の方たちが関わるクラフトビール西陣麦酒、京都工場保健会常務理事の橘宏が準備した伏見など全国の銘酒とお酒に合う料理などを用意し、参加の皆さんに楽しんでいただきながら交流を深めました。懇親会の冒頭に来年の学会長、大阪ガス岡田邦夫先生から挨拶いただきました。最後は素晴らしい会場の提供をはじめ、広く開催のために尽力くださった立命館大学中川克先生の挨拶で令和最初の近畿産業衛生学会を終えました。

## 第59回近畿産業衛生学会の報告

第59回近畿産業衛生学会基調講演  
の報告パナソニック健康保険組合  
健康管理センター

伊藤 正人



学会長の森口次郎先生の座長の下、産業医科大学の森 晃爾教授から「我が国の産業保健プロフェッショナルの育成システム～これまでと今後～」のご講演がありました。その概要は以下の通りです。

『産業保健プロフェッショナルの歴史は浅く十分に根付いているとは言えない状況にある。産業保健は元々、法順守をしていけば良い時代から、安全配慮へと広がり、昨今は企業の生産性や活力にも係る健康経営へと拡大する方向である。その中で、リスクを評価しリスクをコントロールする、いわゆる判断し評価できる能力が必要となる。リスクを評価すると言っても新しい健康障害要因の変化に対応しないといけない。このような中、ISO45001に代表される労働安全衛生マネジメントシステムや健康経営の考え方が重要になる。どちらも目標設定から計画実施をPDCAで回す自主管理モデルである。今後、このようなシステムに関わることができる高度プロフェッショナルが必要になる。独立した産業保健プロフェッショナルとして位置づけられる要件として、①固有の役割や価値があること、②科学的なエビデンスを活用していること、③伝達可能な高度の技術体系が存在すること、④育成するシステムを有することの四点を挙げられた。例えば、産業医と産業看護職を例に取っても、業務の多くでオーバーラップしていることが多い。多様性は認めるものの役割分担の重要性が示され、自律的産業保健に必要なプロフェッショナルモデルの構築が急務であると説かれた。そのモデルの一つとして、産業医には社会系専門医制度および産業衛生学会専門医制度が、産業看護職には産業看護専門医制度が、オキュペーショナルハイジニストには認定オキュペーショナルハイジニストがあるが、それぞれの制度のもとで行われる教育がプロフェッショナルとして必要なコンピテンシーを身に着ける上で十分であるかは検討の余地がある。本邦ではこれまでの努力の結果、一定の産業保健プロフェッショナル育成制度により一定の人材育成が成されている。しかし、社会制度として安定した人材供給やサービスが提供されているかという大きな課題も存在する。第一にはプロフェッショナルの供給が需要に対して大きく足りないこと、第二に事業者や労働者側の十分な認知がないこと、第三に継続的に学習する仕組みが必ずしも十分といえないことである。その解決策として、従来の事業場単位から、今後は企業グループ全体の統括的アプローチが必要で、統括産業医の機能強化や育成プログラムの重要性が示唆された。』

今回の学会テーマである「産業保健職のキャリアを考える」に相応しい基調講演でした。

医師会も認定産業医を組織化する動きがあり、そこに産業衛生学会専門医や指導医がどうかかわっていくかを含め、時代もいよいよ「自立した産業保健を企業単位でコーディネート」できる統括産業医の育成に焦点が当たって来ました。また、多職種とどのように連携したら良いかなど、考えさせられる講演内容で大変参考になりました。

## 第59回近畿産業衛生学会の報告

「プロスポーツの社会貢献 ―今日の  
社会とスポーツ―」を  
拝聴して日本製鉄（株）和歌山製鉄所  
（一財）NSメディカル・ヘルスケアサービス  
麥谷 耕一

教育講演として、立命館大学スポーツ健康科学部教授、種子田穰先生に御講演を頂きました。エネルギーな語り口で終始楽しく拝聴させて頂きましたが、そこに先生のあふれんばかりのスポーツに対する愛情と情熱を感じました。

講演内容を御紹介させて頂きます。まず、ピーター・F.ドラッカーの言葉を引用され、「事業（企業）の目的は、利益ではなく、顧客の創造である」それが、利益に繋がる。利益の獲得を自己目的化したことにより、企業の不祥事（自動車の燃費改ざん、食品の産地偽装等）を例に挙げられて、企業のブランドのイメージが低下し、大きな損失に繋がることをお話されました。

次に、プロスポーツビジネスは、「公共財」であり、人と人の一体感や連帯、喜びや悔しさの心と心の結びつきにより、地域コミュニティへのアイデンティティが高まり、経済効果、活力をもたらす力がある。実業団のスポーツ競技を保有している企業もあるが、チームの応援や社内でのスポーツイベントに参加することを通じて、社員間の一体感が高まり、風通しのよい職場形成につながり、メンタルヘルスにも好影響を及ぼすものと感じました。

また、スポーツビジネスの特性は、「見る」「する」という形のないサービスであり、時間消費型ビジネス、エンターテインメント型ビジネスであるが、コアは高いレベルの試合を提供し、来て楽しい、良かった、また来たいと思えるよう拡張領域が必要であること。そして、リーグ集約型（アメリカ型）、チーム分権型（ヨーロッパ型）の違いを解説され、魅力ある商品を生産するためには、仕組み作りが重要であることを理解できました。

最後に、「健全な社会に健全な事業（企業）が存在し、健全な事業（企業）に関わる（で働く）人々が意欲をもって、人々に有用な魅力ある商品を生み出し、その商品を消費した人々が健全な社会を形作る。この好循環が、健全な社会と事業（企業）の発展と人々の幸せを生む。」というメッセージには、とても感銘を受けました。

本教育講演を拝聴し、スポーツに対する社会貢献の深さを理解することができ、大変有意義でした。

## 第59回近畿産業衛生学会の報告

## シンポジウム『よりよい産業保健サービスをめざして』～専門性向上と連携～に参加して

(株) クボタ・人事部健康管理室

奥村 恵



シンポジウムでは4名の先生方が登壇され、各々の職種の役割と現状、今後の課題等についての講演がありました。

「産業看護職のキャリア形成について～多職種との連携～」(津田由紀先生)では、産業構造、労働者の働き方の多様化に伴い、産業看護職に求められる役割が多様化しているため、産業看護職のキャリア形成を組織として整え、それぞれの能力や意欲を向上させる仕組みを「制度として体系化」する必要がある、経営層や労働組合など組織内の合意形成を行っていく重要性を学びました。

「産業心理職としての過去・現在・未来～国家資格化に伴う役割・キャリア育成をめぐる～」(森崎美奈子先生)では、産業心理職の需要が個人から組織へと変化し、さらに国家資格化によって社会的認知が進み、より高いレベルでの実践活動を期待されているため、今後の産業心理職のキャリア形成が重要であることを学びました。

「産業技術職作業環境測定士—現状の課題とこれから—」(佐本一先生)では、日本での作業環境測定や作業環境測定士の歴史、オキュペイショナルハイジニスト等について学びました。日本の作業環境測定は、日本独自のものであり、欧米の作業環境測定とは異なっていることを知りました。

「嘱託産業医の資質向上に向けて—京都府医師会産業医部会と社会医学系専門医制度京都プログラムの取り組み—」(森口次郎先生)では、改正労働安全衛生法の施行に伴い、産業医・産業保健機能が強化されることとなり、産業医の専門性の維持・向上のため、さまざまな機関と協力し、提供している教育プログラムについて紹介されました。

4つの演題を通じて、産業医・産業保健スタッフは、今後さらに幅広い知識が要求されるため、キャリア形成は、個人だけでなく、組織として体系的に取り組むこと、事業場や労働者に良質な産業保健サービスを提供するために、多職種間や事業場との連携が重要であることを改めて感じました。

## 第59回近畿産業衛生学会の報告

## 第59回近畿産業衛生学会一般演題の報告

京都工場保健会

伊勢崎 朋



今回のテーマである「産業保健のキャリアを考える」に関連し、医師・産業看護職・心理職・作業環境測定士など、産業保健に関わる多くの職種がご講演されました。保健師の私にとっては、普段接しない研究分野があり、どの演題も大変興味深く拝聴いたしました。それぞれの職種の視点から、抱えている課題や産業保健スタッフの資質向上にむけた取り組み、今後の見通しなど、自分自身のキャリア形成を考える機会ともなる、有意義な時間となりました。

今回ご講演頂いた中でも、特に私が興味深く感じたのは、一般財団法人京都工場保健会の佐本 一氏の「産業技術職作業環境測定士—現状の課題とこれから—」です。日本における作業環境測定および作業環境測定士の歴史や、現行の作業環境管理を行う中での考察を述べられていました。現行の環境測定基準は個人ばく露ではなく、作業環境中の有害因子の状態を把握するものであり、実際に、第1管理区分でも個人ばく露量が多いケースがあるという内容には驚きました。改めて労働衛生の3管理についての重要性を感じ、作業環境測定について学ぶことができました。

私自身は「遠隔面接システムにおける初回面接の有効性の検討」というテーマで、初めて演題発表をさせていただきました。特定保健指導実施率向上のため、今後ニーズが増すことが予測される遠隔形式での初回面接が、有効な手段であるかどうかを検討いたしました。緊張して思うように発表できなかったことは悔やまれますが、今まで敬遠しがちだった演題発表に挑戦し、多くの学びを得られた貴重な機会となりました。今回の産業衛生学会で得られた知識やアイデアを、事務所や労働者の方々に還元できるよう、日々精進して参りたいと思います。

## 第 59 回近畿産業衛生学会の報告

第 59 回近畿産業衛生学会優秀演題  
賞を受賞して大阪がん循環器病予防センター  
循環器病予防部門

手塚 一秀



この度は大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。選考委員の皆様はじめ学会関係者の皆様はこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

令和元年度は、ストレスチェック制度の義務化から4年目にあたります。各事業所において過年度までのデータが蓄積されて、ストレス状態の「見える化」が進み、それらをもとにした職場環境改善がますます期待されてきております。本研究では、仕事の量的負担が多い勤務者では、職場の対人関係でのストレスが肥満と関連することが示唆されました。本研究結果が、優先して対策を講じる部署を判別する際の参考となり、職場環境改善を促進させるきっかけになればと願っております。

今回の受賞を励みとして、勤務者の皆様のためになる研究を続けながら、産業医として職場に還元していきたいと考えております。これからもどうぞよろしくお願い致します。

## 第 59 回近畿産業衛生学会の報告

第 59 回近畿産業衛生学会若手奨励  
賞を受賞して

オムロン（株）草津事業所

深井 恭佑



この度は、若手奨励賞を頂き、誠にありがとうございます。今回の取り組みは、ストレスチェック組織診断結果の管理職へのフィードバックの際の、管理職との対話から始まりました。“職場内にどんな問題があるのか”という問いかけでは限界があると感じ、“自分達は、どんな職場になりたいか”という問いかけをすることで、職場が前向きな活動ができたと考えています。また、産業保健スタッフが職場と一体となり、個人的、組織的なアプローチを継続的におこなったことが、今回の成果に繋がったと考えております。一部門の活動が、経営層や他部門の管理職から高評価を受け、産業保健スタッフの活動をアピール出来た事は、大きな成果と感じております。

今後も、地道な産業保健活動を継続し、職場のニーズの抽出とそれに応じていけるように、精進していきたいと思っております。今後ともご指導の程、よろしくお願い致します。

## 第 59 回近畿産業衛生学会の報告

第 59 回近畿産業衛生学会若手奨励  
賞を受賞してパナソニック（株）IS 社西門真・  
健康管理室

石田 あかね



このたびは若手奨励賞の栄誉を賜り、誠にありがとうございます。本研究のため、ご指導頂きました先生方に心より感謝申し上げます。

本研究は、従業員の男性肥満陽性率を下げたいという思いから、減量勧奨メールを送信し、体重変化への影響について検討を行いました。この結果、対象 1167 名の平均体重について、従来は単調増加でしたが、メールを送信した年は減少に転じたこと、体重変化の平均について、メールを送信していない年よりもメールを送信した年が有意に低かったことから、メールを送信することによる体重増加の抑制が示唆されました。メールは一度に多くの方へ送信でき、作成を自動化することが可能で、多くの方へアプローチをする際は非常に有用だと考えます。今後もメールを送信する時期や回数、メールの内容をより従業員の心に届くものにする等の検討を行い、更なる体重増加の抑制につなげ、従業員の皆様の健康のために活動していきたいと思っております。



第 59 回近畿産業衛生学会会場風景

**第29回日本産業衛生学会全国協議会の報告****第29回日本産業衛生学会全国協議会に参加して**

パナソニック健康保険組合  
健康管理センター

吉田 直樹

2019年9月12日から14日まで、宮城県仙台市で開催された第29回日本産業衛生学会全国協議会に参加しました。

大阪からの長旅でしたが、東北新幹線の座席にはヘッドレストがあり快適でした。人口100万人の仙台市の玄関口である仙台駅は清潔感にあふれ、隣接のエスパル仙台には食事が楽しめる店やショップが数多くあり、心地よい気分になりました。学会会場の仙台国際センターは東北大学の近くに位置し、傍には仙台市博物館があり、伊達家ゆかりの収蔵品や展示品が多くあるとのことでしたので、最終日（昼食時間）に博物館を観覧しました。私が愛媛県に長く住んでいたと知ると、学芸員の方は、「伊達政宗の長子秀宗が宇和郡10万石を賜り・・・」と、伊達家と宇和島城（愛媛県）との関係について丁寧に説明して下さい、心温まる感じでした。

さて、全国協議会の内容についてですが、日本医師会との合同企画ワークショップ「医師の働き方改革」では、各分野で活躍されているパネラーの先生方から、現状の課題を御教示頂き大変参考になりました。医師という職業における働き方改革の難しさの根本がどこにあるのか少し理解できた気がします。「急激な変化への対応」というワードが印象に残り、このことがいかに難しいかも気づかされました。日本医師会では「医師の働き方改革に関する意見書」を取りまとめられたとのこと、日本医師会において医師の働き方が熱心に検討されていることを知り、大変敬服した次第です。

また、4部会合同シンポジウム「産業保健機能の強化に向けて、それぞれの職種の果たすべき役割」では、日本産業衛生学会の4部会のそれぞれの代表者から、その職種における現状の課題や今後の方向性について御教示頂き、とても有意義なシンポジウムであったと思います。

さらに、口演発表・ポスター発表においても、多くの施設から、昨今の話題性のあるテーマに関する発表があり、質的にも充実した協議会でした。

また、協議会の日程に、社会医学系専門医・指導医講習会も設けて頂き、対象の先生方にとっては大変ありがたかったのではないかと思います。

この地で開催された全国協議会に参加する機会が得られたことに感謝し、今後の全国協議会のさらなる活性化を期待します。

**第29回日本産業衛生学会全国協議会の報告****第29回日本産業衛生学会全国協議会の報告**

積水化学工業（株）・健康推進室

京橋 生果



第29回日本産業衛生学会全国協議会では、2019年9月12日～14日に「働きたいを支える産業保健」をテーマに開催されました。働く人のダイバーシティ化が進む昨今、一人一人の「働きたい」という想いの背景も多様化し、産業保健師にも柔軟な姿勢と新たな取り組みを実現する行動力が求められているように感じています。その中で全国協議会に参加させていただき、産業保健の基盤強化に必要な知識や、新たな研究・技術に触れ、視野を広げられたことは非常に学びの多い時間でした。

今回は若手研究者の会に参加させていただいたのですが、アンケート作成方法や実際のデータを用いた集計方法の演習など、学会発表に必要な技能を基礎から教えていただきました。効果指標を集計・分析することは、各施策のPDCAサイクルを適切に回す上で非常に重要なため、日頃の業務でも必要とされる機会が多くあります。これまでは独学の部分もあったのですが、実践的な内容を先生方から直接教わり、より効率的かつ正確に分析ができるようになったと実感しております。さらに、学会発表をする際に押さえるべきポイントまで丁寧に教えて頂いたことで、学会発表に向けて努力していきたいという想いを強くしました。

また、シンポジウム4の「健康経営における外部資源の活用を考える」では、外部資源を導入する際の留意点について、サービスの利用者側、提供者側、国の取り組みという多方面からお話を伺いました。事実、外部資源の活用は健康経営の活動に広がりを生み、手の届きにくかったところにも支援が可能になるなどのメリットがあると考えています。一方、多種多様なサービスが発生する中で、選択する側にもエビデンスや質を見極め、適切なサービスを選び取る責任が生じてくると強く感じました。必要とする人に適切な健康支援届けられるよう、今回のシンポジウムをヒントに自らの力量を高めていきたいと思っています。

## 受賞おめでとうございます。

## 緑十字賞を受賞して

豊川産業医事務所  
豊川 彰博

この度、中央労働災害防止協会緑十字賞を受賞させていただきました。

令和最初の年の受賞になり、来年、産業医活動 20 年目を迎える節目に受賞することができ大変光栄に思います。中央労働災害防止協会とは、縁あって、研修会の講師などを務めさせていただくようになり 13 年程になります。大阪労働衛生総合センターの圓藤先生はじめ事務局の皆様には、長きにわたりお世話になっていきますと共に、今回推薦をいただき大変感謝しております。

私は卒業後 14 年間、糖尿病を専門として病院の内科に勤めていましたが、市民病院に勤務した後に大阪市交通局の健康管理室に異動し、産業医として勤務することになりました。3 年後に民間企業に移り、専属産業医として 9 年間勤務した後、2013 年に労働衛生コンサルタント事務所を開業しました。現在は多くの中小規模事業所と契約して活動しています。

対象となる事業所の規模は変わりましたが、定期健康診断の事後措置、長時間残業者や高ストレス者など多くの従業員と直接面談し、精密検査や治療の受診勧奨、生活習慣の改善、働き方の見直しなど、一人ひとりに合わせて対応することは従来と同じです。

長らく臨床に従事した後に産業医として活動するようになったためか？いつも自問することがあります。これまでの経験の中で病気の治療のために、自ら外来に来られる患者さんの行動変容もままならないのに、現在は健康な従業員に「このままでは将来病気になるので、生活習慣を改善しましょう。」などと説明し上手く行くはずはありません。予防が大切とは分かっているものの、専らハイリスク者の対応に終始しているのが現状です。

まだまだ、良い解決策は見出せませんが、これからも、従業員の健康に寄り添いながら、少しでも一次予防に資することができるよう頑張っていきたいと思います。

最後に、これまでご指導いただいた多くの先生方、職場の同僚やご支援いただいた皆様にご心から御礼申し上げます。

## 緑十字賞を受賞して

中嶋ヘルスケアオフィス代表  
中嶋 千晶

このたび、緑十字賞を受賞させていただくこととなりました。ご推薦いただいた中央労働災害防止協会の皆様や圓藤吟史先生、ご指導ご支援賜りました皆様にご心より御礼申し上げます。

1 型糖尿病のインスリン治療をテーマに大学院を修了後、THP 指針が公布されたこともあり、糖尿病を持ちながら社会生活を営む工夫と、合併症予防を支援したいと思い、産業保健の道を歩むことになりました。最初は嘱託産業医として THP やハイリスクアプローチに携わっていましたが、専属産業医となりましてからは、産業保健の課題に対して、労働安全衛生法が改正されていく中、日本産業衛生学会やサンユー会、関西産研等の研究会を通して、ポピュレーションアプローチや組織に働きかけることの重要性を教えていただきました。

現在は、労働衛生コンサルタント事務所を開業し、嘱託産業医として中小企業の衛生管理体制の構築と健康保持増進に関わる一方、糖尿病学会専門医として、1 型糖尿病患者さんのポンプ治療や 2 型糖尿病患者さんでは、食事・運動の行動変容を支援するクリニックを開業し、多くの働く人の両立支援に関わることができるようになりました。

糖尿病患者さんの療養支援においては、STIGMA と ADVOCACY が課題となっていて、特にアメリカでは、社会的環境整備が提唱されていますが、事業主に健康配慮義務が課せられ、定期健康診断という制度を持つ日本では、健康診断事後措置の中で行動変容につながる効果的な保健指導を重ねていくことが糖尿病対策において重要と考えています。

恩師より、医学的根拠に基づくのみならず、社会的、家族的背景さらには人生観や死生観も踏まえて臨床にあたるよう指導を受けましたが、働く人の健康を守る場でこれからも研鑽をつんでいきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 会員の声



### 新米産業医の苦闘開始

三井住友海上火災保険（株）・関西健康管理室

小室竜太郎

平成 31 年 1 月から三井住友海上の専属産業医（関西）に着任致しました。平成 2 年大阪大学卒業後は内科医として循環器～糖尿病・代謝・内分泌の分野で診療・教育・基礎研究に従事して参りました。今回は産業医という新しい分野への挑戦のため、不安や緊張を抱えながらのスタートとなりました。

社内では関西の専属医として、関西・中部・中国・四国・九州の健康管理室を管轄しており、エリアは近畿 2 府 4 県だけではなく当社の西日本全体（北陸～沖縄）にわたります。健診については、健診担当の専属産業医が一括管理しておりますので、私の業務の中心はメンタル不調者の復帰支援で、他、フィジカル疾患として、癌・心血管疾患を始めとする疾病・指定難病・進行性神経疾患の社員の体調確認や、健診で要医療・要精密検査の対象にもかかわらず医療機関受診のコンプライアンス不良

者への個別指導等があります。メンタル不調者や上記フィジカル疾患社員の場合は当該エリアへ出張面談も数多く実施しています。

本職務を開始してまだ日は浅いにも関わらず、メンタル不調は一定の割合で発症し対応に追われますし、また既に現役社員の大動脈解離による突然死、勤務中の脳梗塞発症などもすでに遭遇し、大変悩ましいです。さらに睡眠時無呼吸症候群も相当数見られますが、大都会を離れた地域では医療機関が少ない上に、営業担当者は皆、社有車運転が必須であったりします。安全に配慮すると社有車運転禁止措置になり、その措置を付帯するとストレスの原因になってしまう等のジレンマも悩みの種です。

まだまだこれからもわからないことが続々と出てくるのだと思いますが、諸先生方に御指導をいただきながら、責任ある一人の産業医として貢献してまいりたいと思います。当社の関西健康管理室は診療所としての機能はなく、診療行為そのものはありませんが、「患者様一人一人を丁寧に診察する」というこれまで諸先輩方から受け継いでまいりました精神はメンタルであれフィジカルであれ、常に忘れず精進してまいりたいと考えております。何卒宜しくお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*



### 労働衛生関連の分析業務について

パナソニック健康保険組合  
産業衛生科学センター

東 久博

私の勤務するパナソニック健康保険組合産業衛生科学センターは、国内のパナソニックグループ事業場の様々な職場における労働衛生活動をサポートする組織で、労働衛生管理や特殊健康診断（生物学的モニタリング）、作業環境測定、労働衛生教育、作業管理を「総括管理」として一元的に行っております。入社後は、環境計量分析から始まり、作業環境測定及び生物学的モニタリング分析業務に 20 数年携わってまいりました。日々の主業務としましては、分析全般のデータ管理で、入社した頃から比べて考えますと分析機器の進化はめざましく、感度の向上や操作性、データの処理能力も優れたものになってきています。

11 月に福島県郡山市で開催された第 40 回作業環境測定研究発表会に参加し、当センターからは平成 29 年 6

月に特定化学物質の特別管理物質の対象となった三酸化二アンチモンについて作業環境測定と生物学的モニタリング結果の整合性の検証を契機に分析手法を検討した報告として「電子材料用樹脂中の三酸化二アンチモン分析条件の検討」について発表を行いました。私共の他に多くの最新の作業環境測定業務に係わる分析手法の発表があり、呼吸用保護具と個人サンプラーを用いる測定、化学物質管理、作業環境測定を巡る労働衛生行政の動向といった話題についてのシンポジウム、最新機器のメーカープレゼンテーションと大変関心の高い内容となっております。また、今回の発表会を通じて分析業務に係わる者として改めて精度管理の重要性を痛感いたしました。現在実施している分析法についても常に、より安定した結果が得られるよう問題点を抽出し改善していかなければなりません。分析機器の進化に遅れを取らないように継続して新たな手法開発についても学会での発表事例や論文など広く情報を収集し、チャレンジ精神を持って取り組んでいきたいと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 職域がん検診の精度管理

大阪大学大学院医学系研究科環境医学

祖父江友孝

36年前に大学を卒業して以来、一貫してがん疫学に携わっていますが、産業保健については、7年前に大学に帰ってきてからになります。現在の私の関心事の1つは、職域がん検診の精度管理です。私は長年がん検診に係ってきましたが、がん対策としてのがん検診は市町村が実施するがん検診が主体で、職域におけるがん検診は、これまでアンタッチャブルの領域でした。理由は、市町村がん検診が健康増進法に基づく事業であるのに対して、職域がん検診は法律の根拠を持たないからです。ところが、今や市町村がん検診の受診者の多くは70歳以上の高齢者が占め、本来がん検診によって死亡減少のターゲットとすべき50歳から60歳代の受診者はほとんどが職域でカバーされています。がん対策側から眺める職域がん検診はますます重要度が増しているのですが、これを産業保健側から眺めると、メタボ、メンタルに比

べて数が少ないために、どうしても日常活動の中では優先順位が低くなりがち、というところかと思います。

2018年3月に、厚労省から「職域におけるがん検診に関するマニュアル」が出てから、産業保健関係の皆様にも、若干関心が高まっているかと思います。がん検診の精度管理は、体制の管理と結果の管理からなり、前者はチェックリストや仕様書、後者はプロセス指標（要精検率・精検受診率・がん発見率）を用いることになります。後者について、精検受診率は高ければよいのでわかりやすいですが、要精検率・がん発見率は値の解釈が複雑で、次のアクションに結び付きにくいのが難点です。それに代わる指標として、検診性能の本来の指標である感度・特異度をレセプトを用いて測定することを考え、協会けんぽのいくつかの支部で検討し、本年度から職域がん検診の厚労科研研究班を立ち上げました。恐らく、これが職域がん検診の精度管理の切り札になると思います。これまで、ほとんど手の付けられてこなかった領域だけに、社会的インパクトもそれなりに大きいので、段階的に取り組んでいきたいと思っています。

## 会員の異動（敬称略）

### 〈新入会員〉

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 萩原 光和子 | 北おおさか信用金庫               |
| 小島 佳那  |                         |
| 野田 和宏  | のだ歯科                    |
| 松田 千枝  | 松田歯科医院                  |
| 伊勢崎 朋  | 京都工場保健会                 |
| 石津 喜造  | いしづ歯科                   |
| 上田 真由美 | 京都府立医科大学                |
| 松田 安和  | 松田歯科医院                  |
| 廣吉 優花  | パナソニック健康保険組合 産業衛生科学センター |
| 豊島 冬実  | パナソニック健康保険組合 産業衛生科学センター |
| 酒井 俊宏  | しんまちさかいクリニック            |
| 松尾 祥平  | (株)堀場製作所 健康管理室          |
| 石井 健太  | 中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センター |
| 平井 孝幸  | JXTG エネルギー (株)堺製油所      |
| 天野 和代  | (株)ダイセル 大阪本社            |
| 桐田 真由  | (株)ダイセル                 |
| 尾崎 愛実  | 大阪府警察本部                 |
| 福本 ふじ佳 | (株)JUMOKU               |
| 小村 江美  | 国立病院機構 大阪医療センター         |
| 高橋 良斉  | 医療法人内海慈仁会 内海メンタルクリニック   |

## 近畿地方会総会のお知らせ

2020年度、第68回近畿地方会総会を下記日程・会場で開催予定です。

日程：2020年6月6日（土）

会場：大阪市立大学医学部学舎4階大講堂

詳細は近畿地方会ホームページ（<https://jsoh-kinki.jp/>）および5月発行の近畿地方会ニュース122号に掲載いたします。ご予約おきください。



## 2019年度 第3回幹事会議事録

日 時：2019年11月9日（木）11：55～13：10

場 所：立命館大学朱雀キャンパス 1F 多目的室1

出 席：伊藤、井上、岩根、上原、圓藤吟史、河津、清原、鮫島、鈴木、祖父江、堤、中西、西田、濱田、林、平田、廣部、藤岡、村田、森口、森山、森岡

欠 席：荒木、圓藤陽子、久保田、長見、丸山

（敬称略 50 音順）

### 1 学会長挨拶と優秀演題賞等の選考結果

森口学会長より学会開催について挨拶があった。現在260名の参加があり、優秀演題賞は手塚一秀先生、若手奨励賞には石田あかね先生と深井恭佑先生が選ばれたとの報告があった。

### 2 予算執行状況並びに来年度予算、事業計画について

中西会長より予算執行状況について報告され、2020年度予算案について資料を用いて説明があった。支出削減に努めるべきとの意見を受け、資料を用いて支出削減案についての提案を行った。地方会ニュースの発行を年2回にして55万円の削減し、さらに、幹事会、大学部会研究会連携プロジェクトの助成、医部会助成金辞退も含めて当初計画よりも85万円削減することとした。今後は参加費の値上げも検討し、単年度黒字を目指すこととした。

来年度事業計画について、中西会長より資料を用いて説明があった。

### 3 選挙関係について

佐藤選挙管理委員長より、選挙管理委員会議事録を用いて説明があった。

代議員選挙後の当選者名簿の扱いと、地方会長と監事に同時立候補の扱いについて、本幹事会では時間がなく次回幹事会で引き続き検討することとなった。

### 4 大学・部会・研究会連携プロジェクト

岩根幹事より報告があった。11月2日に第7回が開催され、大阪大学を訪問し、約30名参加された。今後は、2月18日大阪市立大学、2月29日奈良医大を訪問する予定である。

研究室訪問はこれで終了し、今後は若手学会員活性化のために、来年1月11日に大阪城公園においてワールドカフェ方式で開催する予定である。

### 5 第60回近畿産業衛生学会について

濱田幹事より報告があった。2020年10月3日にテーマを「超高齢社会と産業保健」として開催することとなった。

### 6 第61回近畿産業衛生学会について

中西会長より、兵庫県の順番であるが人選できないため、大阪で人選することを提案され、了承された。

### 7 第68回総会について

林理事より2020年6月6日開催の予定との報告があった。

### 8 本部理事会報告

西田理事より、利益相反についてのガイドラインが策定されホームページ上で公開されていること、メールア

ドレスの登録を推進すること、振込方法の変更についての検討、31回全国協議会は三重県で開催されること、学会設立90周年ロゴについては地方会研究会等で自由に使えること等について報告があった。

## 2019年度 第2回代議員会議事録

日 時：2019年11月9日（木）13：05～

場 所：立命館大学朱雀キャンパス 5F 大講義室

### 1. 開会

### 2. 地方会長挨拶

### 3. 議長選出 事務局選出 北原先生

### 4. 代議員会成立の確認 代議員数111名、委任状34名、出席31名で過半数により成立

### 5. 議事

#### 1) 第59回近畿産衛学会学会長挨拶（森口学会長）

#### 2) 予算執行状況/来年度予算・事業計画について（中西会長）

配布資料に基づき説明。初めに今年度執行状況について説明、次いで来年度予算について資料の訂正があった。ミスプリントと選挙費用の織り込み忘れ、また幹事会で費用削減案が検討され、地方会ニュースを年2回の発行にするなどして経常費用計4,831,800円とすることの提案があった。事業計画とともに意義なく承認された。今後電子媒体での連絡が増えることが予想され、会員へのメールの登録の依頼があった。

#### 3) 大学・部会・研究会等との連携プロジェクトについて（岩根幹事）

研究室訪問について、大阪大学祖父江教授訪問は30名参加、次回は2月18日18：30から大阪市立大学林教授の教室で、その次は2月29日奈良医大佐伯教授の教室を予定している。また若手学会員活性化のための1月11日の大阪城ウォーキング&ワールドカフェの行事の紹介があった。

#### 5) 第60回近畿産衛学会準備状況について（岡田邦夫学会長）

2020年10月3日、大阪府医師会館にて「超高齢化社会における産業保健～Value based healthcare～」をテーマに開催予定であることが報告された。

#### 6) 第61回近畿産衛学会学会長について（中西会長）

再来年は兵庫の順番であったが人選が不調であり、大阪の先生に依頼するとの報告があった

#### 7) 第68回総会（2020年6月6日）について（林理事）

内容は討議中。皆様の参加をお願いする。

#### 9) その他

地方会ニュース発行状況とHP更新状況（清原幹事）

来年1月号の編集をスタートした。HPのアクセスも多くなっているとの報告があった。

### 7. 議長解任

### 8. 閉会

## 大学・部会・研究会の連携プロジェクト第7回研究室訪問

積水化学工業（株）人事厚健 G・健康推進室 荒木 郁乃

11月2日（土）に、第7回研究室訪問が開催されました。今回は大阪大学大学院医学研究科環境医学祖父江研究室に訪問させていただきました。雲一つない爽やかな秋晴れのもと、椅子が足りなくなるほどの盛況でした。

当日は、3名の先生方に以下のご講演をいただきました。

- 1) 北村哲久先生 「日本における AED の普及について」
- 2) 喜多村祐里先生 「尼崎市における中皮腫死亡リスク研究」
- 3) 祖父江友孝教授 「職域がん検診について」

どのお話も興味深く、科学的根拠がもつ説得力に引き込まれました。AED の普及に関しては、AED によって救える命がたくさんあること、一般の方が実際に使用出来ることが大切であると示されていました。その根拠をもって今までより簡便な方法が開発され、学校教育の現場等において AED 普及教育が活発になっているとのこと。中皮腫死亡リスク研究に関しては、長期にわたる膨大なデータを解析した結果、新しい知見を示すことができたとのことでした（論文申請中とのことですので詳細は割愛致します）。研究者は、情熱と執念と根気が必要なのだと感銘を受ける内容でした。本研究は尼崎市

の多大な協力があつたということです。昨今の個人情報保護によりデータ活用がしづらくなっているという話も聞きます。個人情報の保護と研究のためのデータ活用について議論が進むことが必要であると感じました。

職域がん検診については、産業保健スタッフにとって身近な話題でしたので大変盛り上がりしました。質問がたくさん出て祖父江教授に急きょ第2部を延長開催していただきました。

今回の研究室訪問では、現場でもある程度のデータ解析を実施することや産学連携の重要性を改めて実感致しました。土曜日にもかかわらず温かく迎えて下さった祖父江教授をはじめ祖父江研究室の皆さまに心より御礼申し上げます。また、企画して下さった皆さま、貴重な機会をありがとうございました。

次回の研究室訪問は 2/18（火曜日夕刻 18:30 から）  
大阪市立大学大学院医学研究科・医学部医学科 都市医学講座 産業医学 林朝茂教授

次々回は 2/29（土曜日午後）

奈良医科大学 疫学・予防医学講座 佐伯圭吾教授  
の研究室を訪問予定です。

詳細は追って近畿地方会ホームページに掲載します。

## 産業衛生技術部会からのお知らせ

2019 年度総会を 2019 年 11 月 9 日（土）開催の第 59 回近畿産業衛生学会場の立命館大学朱雀キャンパス 多目的室 2 にて 11:55~12:50 に開催しました。議題は 2019 年度事業報告と会計報告および 2020 年度事業予定などでした。

その結果、2020 年度の研修会が以下のように決まりました。

日時：2020 年 3 月 7 日（土）13 時 30 分から 16 時 30 分  
会場：新大阪丸ビル別館（〒533-0033 大阪市東淀川区東中島 1 丁目 18-22）

テーマ：「ハラスメント予防教育につなげるアンガーマネジメント」

座長：長見まき子（関西福祉科学大学 健康福祉学部）

(A) アンガーマネジメントの基本（13:30～15:00）

演者：小山内優里子（アンガーマネジメント協会  
アンガーマネジメントファシリテーター）

(B) ハラスメント予防教育としてのアンガーマネジメント（15:00～16:30）

演者：山崎 昌子（ヘルスウェイブ 公認心理師・臨床心理士）

定員：90 名（先着順で受付、定員になり次第受付終了）  
受付方法は近畿地方会ホームページ「産業衛生技術部会からのお知らせ」欄にて案内致します。

参加費は無料で、資料代を 500 円いただきます。

なお、本研修会は日本医師会認定産業医生涯研修（実地 1.5 単位・専門 1.5 単位）を申請予定です。

皆様、奮ってご参加宜しくお願い致します。

近畿産業衛生技術部会長 長見まき子

## 産業医部会からのお知らせ

### 第24回産業医部会研修会を終えて

川崎重工業（株）兵庫工場 健康推進センター

坂田 晃一

令和元年9月28日（土）にエル・おおさかにて「就業と治療の両立支援について一現状と問題点一」をテーマとした研修会を実施しました。高齢化社会が進む中、「一億総活躍社会」とのキャッチフレーズのもと「働き方改革」が進められています。この改革のポイントの1つとして「多様で柔軟な働き方の実現」があり、今回のテーマもその中に含まれています。近年の診断技術や治療方針の進歩により、かつては「不治の病」とされていた疾病も「長く付き合う病気」に変化しつつある状況で、「治療と就労の両立」を実現させるにあたり、産業医・産業保健スタッフはこれまで以上に期待されていると考えられます。

基調講演として、産業医科大学両立支援科診療科長の立石清一郎先生からご講演いただきました。今日までの両立支援の成り立ちから、それぞれの立場での関わり方に至るまで、具体的な事例も交えながらご講演いただきました。特に、医療機関と企業を結びつける要となるのは本人自身であることが望ましく、医療機関としては本人が自身の病気のことを本人が説明できるように支援すること、産業保健スタッフ（産業医、保健師等）はその本人と企業との橋渡しが重要であることが伝わったと思います。

基調講演に続いて「事業場における事例報告及び課題等」というテーマのシンポジウムを行いました。討論に先立ち、3名のシンポジストから講演をいただきました。センクス産業医事務所の西本真証先生からは専属産業医の経験を踏まえた上での、嘱託産業医先の事業所で両立支援を行うにあたっての体制案や実際におこったケースなど具体的な事例を紹介いただきました。日本製鉄（株）大阪支社の久米田知佳先生からは産業看護職の立場としての嘱託産業医との連携、特に役割分担について発表いただきました。関西労災病院医療連携総合センターの平田直子先生からは両立支援コーディネーターの立場から医療機関として行っている支援状況を発表いただきました。

ディスカッションでは両立支援をより推進していくために活発に議論できたと思います。主体は患者（労働者）であり、私たち産業保健スタッフはそれを支援するというスタンスが重要だと強く感じられました。

最後になりましたが、講師及びシンポジストの先生方、共催及び後援いただきました関係者の皆様及び162名の出席いただいた皆様に紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

## 産業看護部会からのお知らせ

### ○特別研修会のご案内

「産業看護職のための過重労働対策セミナー」（大阪）

日 時：2020年2月15日（土）

13：30～16：40（受付：13：15～）

場 所：OMM 会議室 201

(<http://www.omm.co.jp/index.php>)

〒540-6591 大阪市中央区大手前 1-7-31

内 容：Ⅰ 過重労働の予備知識（健康障害、関連法令概略と労務管理）13：30～15：00

講 師：神原辰徳（三菱ケミカル（株）大竹事業所 産業医）

Ⅱ 産業看護職が実践する長時間労働対策（事例検討）15：10～16：40

講師：内山鉄朗（オムロン（株）統括産業医）

定 員：50名

参加費：無料

申込先：産業医科大学 ストレス関連疾患予防センター

<https://www.uoeh-u.ac.jp/facilities/stress.html>

申込期間：2020年1月14日（火）9：00～2月3日（月）

（定員になり次第締切）

主 催：産業医科大学

共 催：日本産業衛生学会近畿地方会 産業看護部会

\*日本産業衛生学会産業保健看護専門家制度単位申請中

### ○産業保健看護活動を仲間と共に！

産業看護部会では部会員を募集しています。（活動費年2,000円）

産業看護部会は学会内の産業保健師・看護師、約1,600名の組織です。主な活動は現場の実践活動や研究の支援・産業看護部会会報の発行（年2回）・メールマガジンでの最新情報の発信（年4回）・部会企画の各種研修会の参加費優遇などです。一緒に活動してみませんか。入会方法については、日本産業衛生学会近畿地方会ホームページ産業看護部会入会方法をご覧ください。

近畿地方会 HP：

<https://jsoh-kinki.jp/kinki-002/kinki-002-05/>

## 編集後記

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。今年はいよいよ東京オリンピックイヤーです。チケットは入手できましたか？

私は残念ながらテレビ観戦組になりそうです。

さて、オリンピックとなると、今まで以上に世界各国から沢山の人が日本にやってきます。文化交流という意味ではとてもうれしいことですが、テロ

の心配、そして感染症の流入も心配です。「健康危機管理」がうまく機能して無事に1年が過ぎますように。（鈴木 純子）

編集委員（50音順）

圓藤 陽子 清原 達也（代表幹事）

久保田昌詞（担当理事） 鈴木 純子（担当理事）

堤 梨恵 藤岡 滋典 村田 理絵（代表幹事）